令和４年度学校評価関係者評価結果を検討しました。

１．生活と学習環境の快適さを実現する施設運営を目指して

生活環境では、夏の北海道全体が猛暑に見舞われるようになり、当施設でも、計画的にエアコンを設置してきましたが、まだまだ設置が必要な箇所があります。特に利用者が生活する宿舎は、自学自習を行う大切な学習環境の場でもあることから計画的な設置を進めてまいります。学習環境では、学習意欲を引き出す学習支援体制を目指し、デジタル教材の開発やデジタル教科書の使用を見据えて、ＩＣＴ教育に必要な機器を充実させていきます。今年度は、タブレットや拡大読書器の更新を計画しています。

２．就労現場に応じた臨床教育体制の充実

卒業生が活躍する就労現場は手技療法による施術が主体となっています。そこで、進路に応じた実習指導の充実を目指し、現場における手技療法と研修プログラムの実態把握を行うこととしました。今年度の最初の取り組みとして、卒業生の就労現場を理解するための教官研修会を開催しました。また、利用者が主体となり実技の道具の準備ができるよう実技室の環境整備も併せてすすめています。さらに、シラバス（授業計画）の到達目標の検討を通し実習全般の課題の整理を行うことで、臨床教育体制の向上を図ります。

３．あはき師国家試験合格率の維持・向上に向けた学習環境の構築

あはき師国家試験合格率の維持・向上のために、自立訓練部門との連携による早期からの受験対策指導を引き続き実践し効果的なプログラムを検証します。国家試験における音声の試験問題が人の声から合成音声に変わったことから、当センターにおいてもAI音声合成による試験問題の作成の実用化に向けて作業を進めています。文字や図表の表示についてアクセシビリティの研修を行いながら自学自習を促すデジタル教材を作成していきます。学習者個々の特性に応じた教授力の向上のため、教官自身が年間の研究・研修計画を立てています。今年度はテーマを選定し、一年を通じて情報収集を行い、その成果を教育活動へと生かす取り組みを行います。